

## 人間生活科学研究科 研究科目について

研究科目「幼児保育学特別研究」・「栄養管理特別研究」は、修士論文・課題研究の研究指導のための科目です。本研究科で研究指導が可能な分野は以下のものになります。

出願希望者は事前に広報センターに問い合わせの上、自らの研究テーマが含まれる研究分野の担当者（研究科目担当者）と相談し、希望する指導が受けられるか確認をしてください。

### 【幼児保育学専攻「幼児保育学特別研究」】

研究分野	主な内容
子ども発達支援分野	発達心理学や行動分析学の知見や方法論をもとに、定型発達児および発達に困難性を示す子ども（主に幼児期）の発達の評価や支援に関する研究を行う。
心理カウンセリング分野	カウンセリング（認知行動療法やマインドフルネス認知療法）の理論や方法を基礎に、保護者や保育者・教員のメンタルヘルスに関する研究を行う。
保育と対人関係分野	発達心理学や教育心理学の理論や方法を用いて、保育者のキャリア発達、保育者と子どもとの関係、保育に関わる対人関係、などに関する研究を行う。
対人援助労働分野	社会福祉学の観点から、福祉・教育の現場で生起している労働者にかかわる諸問題を取り上げ、実現可能な解決策についての研究を行う。
教育メディア・教育テクノロジー分野	子どもが成長の過程で触れるさまざまなメディアやテクノロジーについて、その有効な活用法と、それが子どもの発達にもたらす問題についての研究を行う。

### 【栄養管理学専攻「栄養管理特別研究」】

研究分野	主な内容
機能性食品・栄養分野	食品の栄養価を、動物実験や遺伝子解析、ヒト官能検査などを用い多角的に解析する。また、食品の機能性と嗜好性の関係や、栄養機能と五感との関連についても研究テーマとして取り扱う。
食品機能利用分野	機能性を有する食品成分の効果について、最新の知見に基づき、主に認知症の予防法開発および派生するビジネスモデルの創出に関する研究を行う。
栄養化学分野	脂肪細胞が分泌するアディポカインなどの液性因子ががんを制御する機序を解明する。また、最新の知見をふまえてがんを制御する食品由来の生理活性因子を探索する研究を行う。

\* 出願書類「入学志願票」の「希望する研究分野」の欄には、上記の研究分野のうち一つを選択し記入してください。